

平成 23 年（2011 年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2011 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～5）

10 月 19 日に実施した上空からの観測（北海道開発局の協力による）では、北西側中腹の爆裂火口にごく弱い噴気が認められましたが、地熱域¹⁾には特段の変化はありませんでした。山頂部では噴気や地熱域¹⁾は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

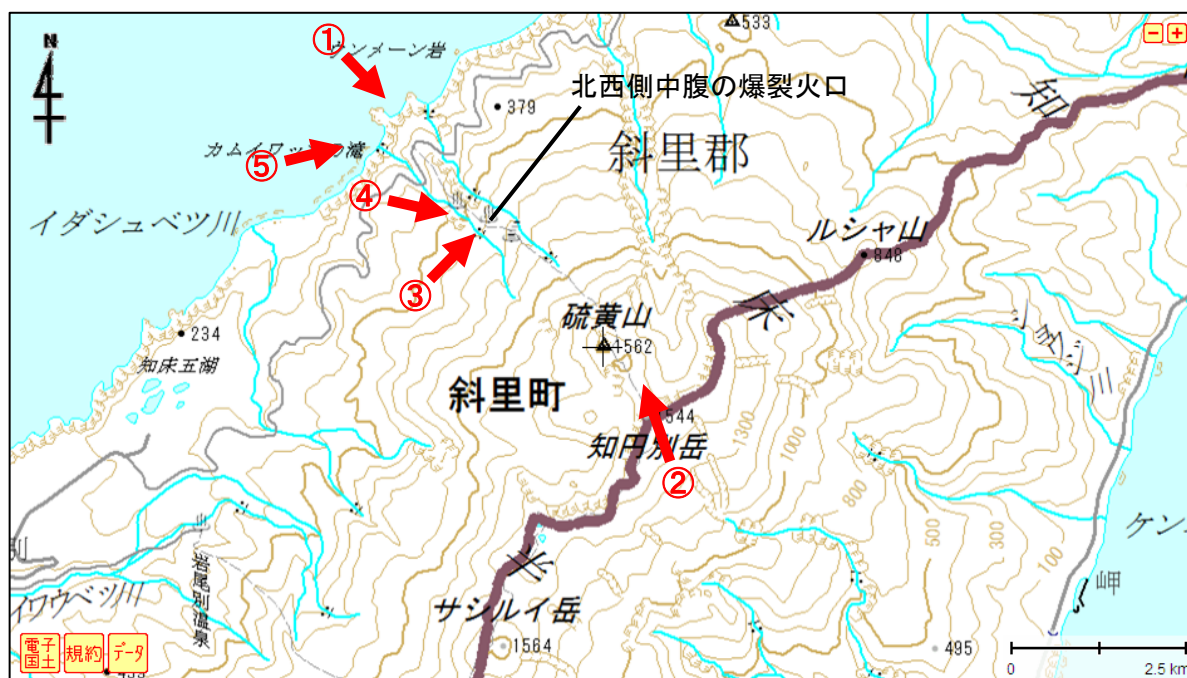


図 1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。



図 2 知床硫黄山 全景（図 1-①から撮影）

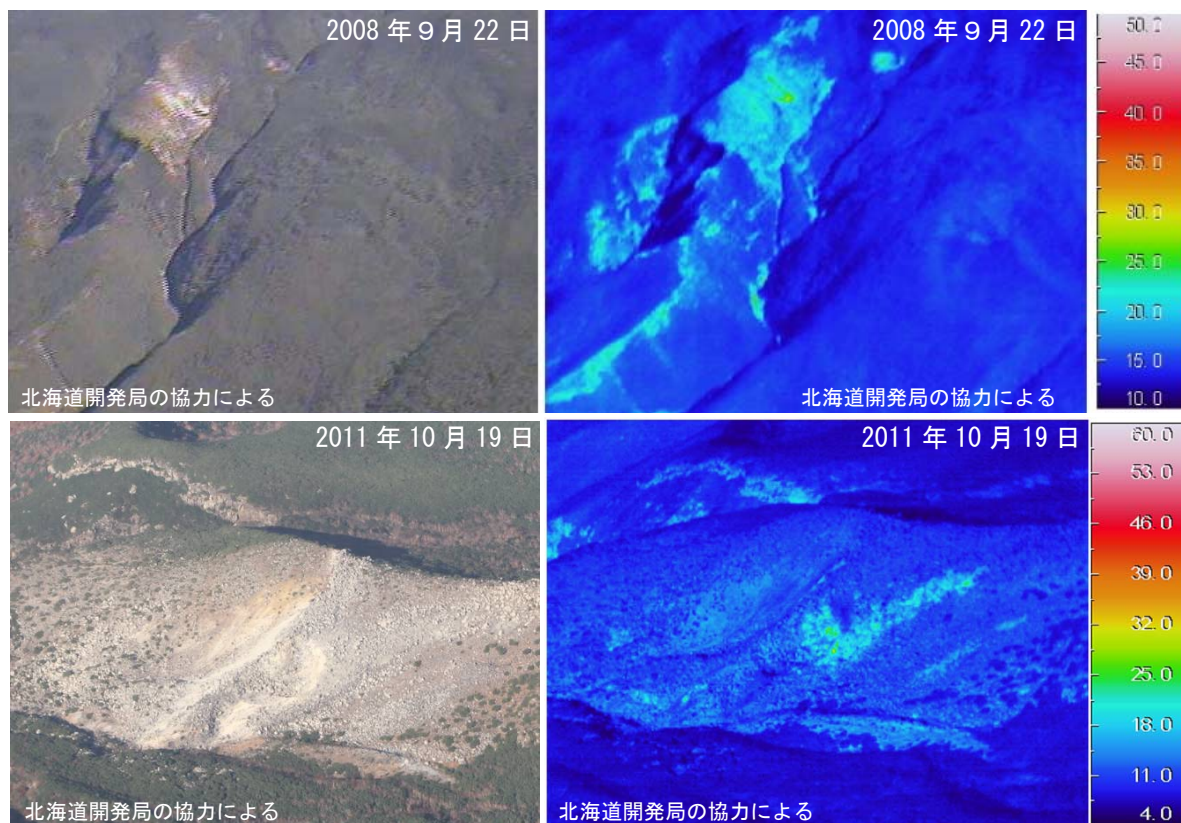


図 3 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布¹⁾
（上段は前回：図 1-④から撮影、下段は今回：図 1-③から撮影）



図 4 知床硫黄山 山頂周辺の状況
（図 1-②から撮影）



図 5 知床硫黄山 カムイワッカ川から流出した温泉による変色水の状況
（図 1-⑤から撮影）